

エ エコシステム・アプローチ等の検討

生物多様性の保全と持続可能な利用を推進する施策は、環境、農林水産、県土整備、教育など、幅広い分野にわたることから、その実施に当たっては関係行政機関との連携はもとより、県民、事業者、NPO/NGO、研究所等の多様な主体の連携・参画が必要となります。このため、有識者や各主体の代表者で構成する**あいち自然環境保全戦略推進委員会**を設置し、生態系ネットワークの形成など戦略の進捗状況を評価し、推進のあり方の検討を行っていきます。

また、推進委員会の分科会としてエコシステム・アプローチ検討会及び生態系ネットワーク形成検討会を設置し、専門分野の検討を集中的に行い、実現可能な手法を探っていきます。

検討会の概要

① エコシステム・アプローチ検討会

開発等に際して、自然環境を定量評価する手法を活用して、回避・低減できない事業地で失われる自然を他の場所で代償することや、生態系ネットワークの形成と連動して現有する自然の質の向上を図ります。このことにより、開発後に現状よりも自然が守られ生物多様性の向上が図られる仕組みを検討します。

② 生態系ネットワーク検討会

生態系ネットワークの形成モデル事業の進め方について提案し、その具体化に向けた方策、地域区分を検討するとともに、県民への普及・啓発方法の検討及び事業の進捗等の検証を行います。

(2) 生物多様性に配慮した行動の推進

ア 「いきもの交流フェスタ」(国連生物多様性の10年記念行事 in あいち・なごや)

県は、COP10を契機に高まった生物多様性の保全についての県民意識の更なる向上と生物多様性に係る連携・交流の促進を目的に、10月7日(金)から9日(日)まで、ステージイベントやブース展示、多彩なフォーラムを盛り込んだ「いきもの交流フェスタ」(国連生物多様性の10年記念行事 in あいち・なごや)を開催しました。

「いきもの交流フェスタ」では、3つの会場を、生物多様性に関する「発信の広場」、「集いの広場」、「体験の広場」と位置づけ、ステージイベントやフォーラム等を通じて、来場者に楽しみながら

COP10の成果や生物多様性を学び・体感していただきました。

また、10月29日(土)及び30日(日)には、「国連生物多様性の10年記念行事 in あいち・なごや」として2つの行事が開催されました。まず、29日には、国連生物多様性の10年日本委員会及び環境省の主催による第1回生物多様性全国ミーティングが名古屋国際センター(名古屋市中村区)で開催され、大村知事が冒頭挨拶を行ったほか、環境部長が生物多様性自治体ネットワーク代表自治体として県の取組を発表しました。翌30日には、名古屋市の主催による「震災と生物多様性」シンポジウムがナディアパーク(名古屋市中区)で開催されました。

【「いきもの交流フェスタ」全体概要】

日 時：平成23年10月7日（金）から9日（日）まで
 主 催：愛知県
 共 催：国連生物多様性の10年日本委員会、環境省、名古屋市
 会 場：愛知芸術文化センター、オアシス21、NHK名古屋放送センタービル
 参加者数：約120,000人
 テー マ：2011-2020 もっと自然と仲良くなる10年
 主な内容：①発信の広場
 大村知事と河村名古屋市長のトークショー 他
 ②集いの広場
 全国生物多様性自治体フォーラム 他
 ③体験の広場
 あいちの伝統野菜を体感してみよう～生物多様性クッキング～ 他

発信の広場（オアシス21 銀河の広場）

（社）日本ケーブルテレビ連盟東海支部主催による「ケーブルテレビフェスタ2011」の協力を得て、より多くの来場者に COP10 の成果や生物多様性について理解していただき、生物多様性の保全につなげるためのステージイベントやブース展示を実施しました。

オープニングセレモニーでは、大村知事と河村名古屋市長によるトークショーが行われました。生物多様性に関する思い出や県・市の取り組み施策について、熱いトークが繰り広げられ、多数の聴衆で埋め尽くされた会場は大いに盛り上がりました。



知事・名古屋市長によるトークショー



ブース展示「愛知の自然発見コーナー」



バーチャル野鳥観察

＜バーチャル野鳥観察＞

オアシス21周辺の空間上にスマートフォン用アプリ「セカイカメラ」、「ジュナイオ」(※)を使った「あいちの野鳥観察広場」を設け、来場者に名古屋の都心で仮想のバードウォッチングを楽しんでいただきました。

※「セカイカメラ」、「ジュナイオ」とは

現実の背景に情報を重ねて表示する「拡張現実(AR)」と呼ばれる技術を用いたスマートフォン用アプリ。写真を撮るようにスマートフォンをかざすと、その場所に埋め込まれた「エアタグ」と呼ばれる情報(文字・画像など)が画面上に現れます。

集いの広場（愛知芸術文化センター12階アートスペース）

「全国生物多様性自治体フォーラム」を開催し、日本各地の自治体と一般参加者が、それぞれの地域における生物多様性保全の取組等を発表、意見交換を行いました。

また、NPO、農業者・漁業者、ユースなどの様々な主体が、それぞれの視点から生物多様性に関する取組発表や講演等を行う「生物多様性わくわくフォーラム」も併せて実施しました。



全国生物多様性自治体フォーラム
（大村知事による挨拶）



若者からの熱いメッセージ！
「僕らと考える生物多様性」

体験の広場（NHK 名古屋放送センタービル1階プラザウェーブ21）

来場者が自らの体験を通して生物多様性について考え、体感していただくため、県内で活動している団体による工作教室や料理体験などの4つのワークショップを実施しました。



花祭りの装飾品「ざげち」づくり



あいちの伝統野菜を体感してみよう
（生物多様性クッキング）

【環境省及び名古屋市主催による事業】

<国連生物多様性の10年日本委員会、環境省主催行事>

名称：第1回生物多様性全国ミーティング

日時：10月29日（土）午後1時30分から午後5時まで

場所：名古屋国際センター

内容：国連生物多様性の10年日本委員会に参画している各セクターの代表が、それぞれの取組について発表、意見交換を行った。

<名古屋市主催行事>

名称：「震災と生物多様性」シンポジウム

日時：10月30日（日）午後1時30分から午後4時30分まで

場所：ナディアパーク デザインホール

内容：「自然の恵みと自然の脅威」をテーマとした基調講演及びパネルディスカッションを行った。

イ 地域の魅力～生物多様性セミナー

生物多様性に配慮した行動を推進するためには、県民のみなさんに本県の自然の魅力やその現状を知っていただき、生物多様性の保全を自らの問題として捉えていただくことが大切です。

そこで、平成23年8月から平成24年2月（予

定）にかけて県内6地域で、生態系ネットワークの形成を始めとする生物多様性の保全の内容を取り入れた自然体験型のプログラムをNPO等と連携・協働して実施し、生物多様性の保全が私たちの暮らしにとって重要であることを県民のみなさんに体感していただきました。

生物多様性セミナー実施事業（平成23年度）

事務所名	事業主体	事業内容
尾張県民事務所	NPO 法人エコデザイン市民社会フォーラム	干潟と森の生き物と植物を調べてみよう 8/27（土）、8/28（日）
尾張県民事務所 海部県民センター	日本野鳥の会愛知県支部	身近な生き物たんけんたい 8/13(月)40名、10/9(日)、12/10(土)
尾張県民事務所 知多県民センター	知多自然観察会	親子ふれあい・自然体験 9/18(日)、9/23(祝)、10/10(祝)
西三河県民事務所	名鉄観光サービス（株）	生物多様性親子バスツアー 9/25（日）、10/16(日)
新城設楽 山村振興事務所	鳳来寺山自然科学博物館友の会	〔予定〕自然観察（野鳥・星空） 2/25（土）、2/26（日）
東三河県民事務所	NPO 法人穂の国森づくりの会	東三河の生き物の恵みバスツアー 9/25（日）、10/22（土）



干潟と森の生き物と植物を調べてみよう
（尾張地域）



東三河の生き物の恵みバスツアー
（東三河地域）

ウ いのちを支えるもりづくり事業

植樹等の環境保全活動を行っている子供たちを「小さなもりを守り隊」として登録していただき、その活動を紹介する専用のウェブサイトを経営しています。

(<http://www.inochi-mori-aichi.jp/>)

このサイトは、多様な主体による植樹等の生物多様性保全活動を促進するため、県民、企業、NPO

等が植樹をする際の情報交換の場となっています。

（3）多様な主体との連携

ア 国内自治体間の連携・交流の促進

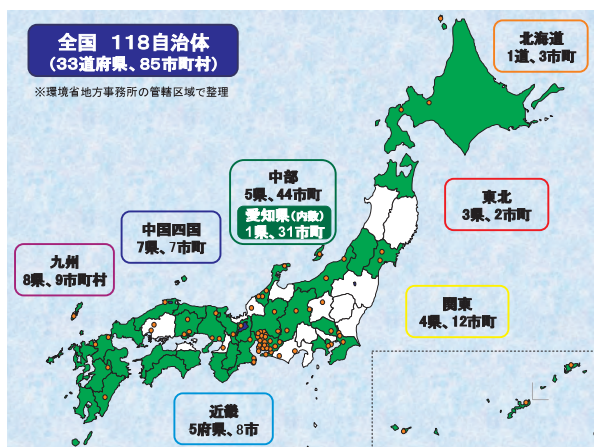
平成22年10月、世界30か国から185の自治体の首長等の参加を得て生物多様性国際自治体会議を開催しました。この会議では、「生物多様性のための地域行動」の一層の拡大を世界各国の地方自治体に呼びかける「地方自治体と生物多様性に

関する「愛知・名古屋宣言」を発表しました。この宣言を受け、「愛知目標」にも地方自治体の役割の重要性と国や自治体間の情報交換の必要性が明記されました。

そこで、COP10 開催から1年を経た平成23年10月7日（金）、生物多様性自治体ネットワークが設立され、大村愛知県知事が初代代表に選出されました。このネットワークは、全国の自治体が都道府県、政令市、市町村の枠を超えて参画し、他のセクターとの協働、自治体としての情報発信や成果の発表などを行うことを目的としており、平成23年11月現在で北海道から沖縄までの118自治体が参画しています。



生物多様性自治体ネットワーク設立総会



生物多様性自治体ネットワーク構成団体

イ 企業などとの連携

（茅原沢自然環境保全地域の保全活動）

「茅原沢」（岡崎市）は、ヒメシヤラ、トチュウヒメシヤラ、オオズミといった広葉樹を数多く交えた森林が広がる、県内では他に例を見な

い、極めて特色ある自然をもつ地域です。県は、昭和59年3月に茅原沢を自然環境保全地域に指定し、その保全を図ってききましたが、近年、急速にモウソウチク（外来種）がその分布を拡大し、貴重な自然環境が脅かされています。

県は、地域の住民の方々及びブラザー工業株式会社と茅原沢自然環境保全地域における活動に関する協定を締結し、学識者による専門的な助言を踏まえながら、地域の住民の方々、企業とともに、モウソウチクの駆除などの茅原沢自然環境保全地域の保全や環境学習活動を行っています。

平成23年春には、モウソウチクの駆除の一環として、伐採した竹の搬出と竹の子の試食会を開催しました。また、同年11月13日には、伐採した竹を活用し、誰でも簡単にできる竹細工づくりを行うなど、モウソウチクの駆除に併せた行事を実施しました。

このような取組を通じて、生物多様性保全に関する社会貢献活動に関心を持つ企業と、企業の資源を活用した協働の活動を希望するNPO等との連携を推進していきます。



モウソウチク（タケノコ）の駆除

ウ 国連生物多様性の10年日本委員会

「国連生物多様性の10年」は、経済界、自治体を含む国内外の幅広い層に対し、「愛知目標」の達成に資する具体的な行動を促す重点期間と位置づけられています。国内では平成23年9月に、これまでの地球生きもの委員会を発展的に改組した国連生物多様性の10年日本委

員会が設立されました。同委員会は、幅広い主体の参加を促すための国民運動の呼びかけ、各セクターの発表や連携の場の提供、記念事業の実施及び促進を行うことを目的としており、岩槻邦男東京大学名誉教授を委員長に、有識者、経済界、関係省庁、自治体等関係団体から構成されています。

県は、自治体の代表として委員会に参画しました。

エ 国際的なパートナーシップへの参加

SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ第1回定例会合が、平成23年3月、名古屋大学において開催され、県も参画して生物多様性の保全のための先進的な取組である生態系ネットワークの形成について発表しました。

SATOYAMA イニシアティブとは、過疎化や

地域に根差した一次産業の衰退により失われつつある里地・里山の価値を改めて見直し、持続可能な形で保全・利用していくためにはどうすべきかを考え、行動につなげようという国際的な取り組みです。

里地・里山の再活性化を通じて人と自然の良好な関係を構築することによって、世界的なレベルで進行する生物多様性の損失を減速させるとともに、人が自然に手を加え続けることで成り立っている環境における生物多様性の維持・向上及び持続可能な自然利用の促進を目指します。

3 今後の展開

私たちの愛知には、山地から海岸へ変化に富んだ多様な自然があります。人々は、その自然を生きながら暮らし、工業や農林水産業といった産業を発展させてきました。

COP10 の理念とも言える「自然と共生する世界」を実現するためには、愛知の産業、学術、行政そして県民が協働して統合的な取組を進めていくことが不可欠です。一方で、私たち一人ひとり

が毎日の暮らしの中で生物多様性の保全と持続可能な利用を意識した行動を実践していくことも重要です。

こうした考えを戦略的に地域づくりに活かしていくため、県は、新たな「**あいち自然環境保全戦略**」を策定し、同戦略に基づき、生態系ネットワーク形成などの先導的施策を通じて自然と共生する社会の実現を目指します。